

令和元年度

授業シラバス・年間指導計画

英語(1年)

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ (S・T)	3	普通科 理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一 斉 授 業・ティームティーチング	英 語 科		

教科書（発行所）	Grove English CommunicationⅠ（文英堂）
教科書以外の教材（発行所）	Grove English CommunicationⅠワークブック（文英堂）

目 標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回	Lesson 1 ～ Lesson 3
		第2回	Lesson 4 ～ Lesson 7
		第3回	Lesson 8 ～ Lesson10
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	1年生では、英語の基礎を徹底的に学習する。予習・授業・復習という学習スタイルを早く確立することが大切である。予習で「分かる」と「分からない」ことの見極めをつけ、「分からない」ことは授業で解決させること。授業で「分かった」ことを復習で定着させて、しっかり身につけることが大切である。 ティームティーチングの授業では、英語でディスカッションやディベートを行うことを目標に、積極的に英語でコミュニケーションを図る能力、態度を養う。積極的な参加、発言が肝要である。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
通 期	4	1	<i>Omotenashi</i> : The Spirit of Japan	10	日本を訪れる外国人旅行者の声を通して自国の文化であるおもてなしについて読む。
		2	Why Is That So?	10	身の回りの疑問についての文章を読む。
		3	The Bento Goes International	10	日本の弁当を通して、アメリカ人の昼食や世界に広まりつつある弁当について読む。
	5	第1回考査			
		4	Owen and Mzee: An Amazing Friendship	12	カバが保護された経緯と、カメとの交流について読む。
		5	The Impossible is Possible	10	ノンフィクション作家の高野秀行さんが作家になったきっかけとなった冒険と彼のメッセージを読む。
	6	6	Eric Carle: How He Creates His Art	10	世界的に有名な絵本作家エリックカールについて読み取る。
		7	The Netherlands-Living with Water ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	12	オランダの地理や文化について読み取る。
		第2回考査			
	7	8	Collective Intelligence ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	15	様々な動物の集合知の例を読む。
		9	10 Billion	12	私たち人間が他の生物や自然に対してどのような影響を与えているかを読む。
		10	One Child, One Teacher, One Book and One Pen	16	教育の大切さを訴えるパキスタンの少女マララ・ユスフザイさんのスピーチを読む。
	8	第3回考査			
		総時間数		117	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ (U)	3	普通科 理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一 斉 授 業・ティームティーチング	英 語 科		

教科書（発行所）	Grove English CommunicationⅠ（文英堂）
教科書以外の教材（発行所）	Grove English CommunicationⅠワークブック（文英堂）， NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 3（Z会出版）

目 標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回	GroveⅠ:Lesson1～Lesson3, New Treasure3: Lesson1～Lesson3
		第2回	GroveⅠ:Lesson4～Lesson6, New Treasure3: Lesson4～Lesson6
		第3回	GroveⅠ:Lesson7～Lesson10, New Treasure3: Lesson7～Lesson9
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	1年生では、英語の基礎を徹底的に学習する。予習・授業・復習という学習スタイルを早く確立することが大切である。予習で「分かる」と「分からない」ことの見極めをつけ、「分からない」ことは授業で解決させること。授業で「分かった」ことを復習で定着させて、しっかり身につけることが大切である。 ティームティーチングの授業では、英語でディスカッションやライティング活動を行い、積極的に英語でコミュニケーションを図る能力、態度を養う。積極的な参加、発言が肝要である。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
通 期	4	T1	Life in Chile as a JOCV Volunteer	9	ある青年海外協力隊員のエッセイを読む。
		1	<i>Omotenashi</i> : The Spirit of Japan	3	日本を訪れる外国人旅行者の声を通して自国の文化であるおもてなしについて読む。
		T2	Say “I am the Strongest” — Shingo Kunieda	9	車椅子テニスチャンピオンの強さの秘密を考える
		2	Why Is That So?	3	身の回りの疑問についての文章を読む。
	5	T3	Jokes – Laughter Is the Best Medicine.	9	ジョークのはたらきと、さまざまな種類の実例について読む。
		3	The Bento Goes International	3	日本の弁当を通して、アメリカ人の昼食や世界に広まりつつある弁当について読む。
			第1回考査		
	6	T4	The Mystery of “The Pied Piper of Hamelin”	9	『ハーメルンの笛吹き男』の物語を理解とその解釈について考える。
		4	Owen and Mzee: An Amazing Friendship	3	カバが保護された経緯と、カメとの交流について読む。
		T5	Artificial Intelligence — How Can We Get Along with Computers?	9	科学技術の進化に伴う問題点について考える。
	7	5	The Impossible is Possible	3	ノンフィクション作家の高野秀行さんが作家になったきっかけとなった冒険と彼のメッセージを読む。
		T6	Kabuki — Traditional Art Continuing to Evolve	10	伝統ある歌舞伎が進化していく様子を読み取る。
		6	Eric Carle: How He Creates His Art	3	世界的に有名な絵本作家エリック・カールについて読み取る。
			第2回考査		
	8	T7	Guernica –Picasso’s Message against War	10	『ゲルニカ』についての内容を理解し、整理する。
		7	The Netherlands-Living with Water ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	3	オランダの地理や文化について読み取る。
		T8	Do You Speak a “Broken” Language?	10	話し言葉としての英語には多様な違いがあることについて学ぶ。
		9	8	Collective Intelligence ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	3
	T9		Sleeping Patterns in the Animal World	10	動物たちの睡眠状況や特徴についての情報をまとめる。
	10		9	10 Billion	4
10			One Child, One Teacher, One Book and One Pen	4	教育の大切さを訴えるパキスタンの少女マララ・ユスフザイさんのスピーチを読む。
		第3回考査			
		総時間数	117		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ (S・T)	1	普通科 理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
分割履修	一 斉 授 業・ティームティーチング	英 語 科		

教科書（発行所）	Grove English Communication II（文英堂）
教科書以外の教材（発行所）	Grove English Communication II ワークブック（文英堂）

目 標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。 ・ティームティーチングの授業では、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うと共に、英語によるディスカッションやディベートを 通して自分の意見を発表する能力の育成を図る。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第4回 年度末考査	Lesson 1～Lesson 2 Lesson 3～Lesson 4
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の 受け方、ノートの取り方な ど)	コミュニケーション英語Ⅱの授業はコミュニケーション英語Ⅰの活動を発展させたものです。コミュニケーション英語Ⅰの内容で理解できていないところがあるとコミュニケーション英語Ⅱではわからないところが増えてしまいます。復習も必ず必要です。また、提出物は期限を守って下さい。そのためには、計画的な取り組みが必要です。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
通 期	11	1	Mt.Fuji: The Pride of Japan	10	日本が世界に誇る富士山についての理解を深め、世界の中の日本および日本文化について考える。
	12	2	Yes, I Do Climb	10	世界的に活躍する女性が発するメッセージを通して、自身の可能性について考える。
		第4回考査			
	1	3	A Penguin Called Happy Feet	10	ニュージーランドの海岸に迷い込んだ1羽のペンギンが特別な待遇を受けたことについて考える。
	2	4	Warka Water ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	9	エチオピアの水不足を目の当たりにしたデザイナーが、その解決策を考える過程を知る。
		年度末考査			
		総時間数		39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ (U)	1	普通科 理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
分割履修	一 斉 授 業・ティームティーチング	英 語 科		

教科書（発行所）	Grove English CommunicationⅡ（文英堂）
教科書以外の教材（発行所）	Grove English CommunicationⅡワークブック（文英堂）， NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 3（Z会出版）

目 標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようであることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。 ・ティームティーチングの授業では、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うと共に、英語によるディスカッションやライティング活動を通して自分の意見を発表する能力の育成を図る。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第4回	GroveⅡ:Lesson1～Lesson2, New Treasure3: Lesson10
		年度末考査	GroveⅡ:Lesson3～Lesson4, New Treasure3: Lesson11～Lesson12
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	コミュニケーション英語Ⅱの授業はコミュニケーション英語Ⅰの活動を発展させたものです。コミュニケーション英語Ⅰの内容で理解できていないところがあるとコミュニケーション英語Ⅱではわからないところが増えてしまいます。復習も必ず必要です。また、提出物は期限を守って下さい。そのためには、計画的な取り組みが必要です。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
	11	1	Mt.Fuji: The Pride of Japan	2	日本が世界に誇る富士山についての理解を深め、世界の中の日本および日本文化について考える。
		T10	Friendship between Turkey and Japan	10	トルコという国の概要と日本との友好の歴史を理解する。
	12	2	Yes, I Do Climb	2	世界的に活躍する女性が発するメッセージを通して、自身の可能性について考える。
			第4回考査		
	1	T11	Dr. Rocket	10	「はやぶさ」とある科学者とのつながりを考える。
		3	A Penguin Called Happy Feet	2	ニュージーランドの海岸に迷い込んだ1羽のペンギンが特別な待遇を受けたことについて考える。
		T12	The Merchant of Venice	10	シェイクスピアの劇のあらすじをおい、登場人物の発言内容を理解する。
	2	4	Warka Water ※「クロスカリキュラム」の時間（「サイエンスタイム」）としても実施	3	エチオピアの水不足を目の当たりにしたデザイナーが、その解決策を考える過程を知る。
			年度末考査		
			総時間数	39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	英語表現 I (S)	2	普通科 理数科	1
履修形態		授 業 形 態		指 導 者 名
全		一斉授業・習熟度別授業		英 語 科

教科書（発行所）	Departure English Expression I（大修館）
教科書以外の教材（発行所）	Breakthrough Upgraded English Grammar in 27 lessons（美誠社） Breakthrough Upgraded English Grammar in 27 lessons Workbook（美誠社） ブレイクスルー総合英語（美誠社）

目 標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	中学英語から高校英語へのスムーズな移行を考慮しながら、高校での英語学習の基盤となる基礎的な文法項目を、その構造と仕組みを理解し、自己表現できる能力の育成を視野に入れながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第 1 回	Lesson 1～6
		第 2 回	Lesson 7～14
		第 3 回	Lesson 15～22
		第 4 回	Lesson 23～27
		年度末	Additional 1 ～ Optional 7
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の 4 項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	予習を必ず実行して、授業に出席してください。わからない箇所を自分で参考書を読みながら確認した上で、授業に臨むことです。学校で学習した内容はその日のうちに復習プリントを用いて復習してください。 参考書を自分で読み進めながら英文法を体系的に理解使用とすることが大切です。そして、学習した内容を実際の言語の使用場面で運用してみてください。習ったことを実際に使用することで、それぞれの文法項目が自分のものとして習得されるはずです。		

年間授業計画表						
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント	
通 期	4	L1	文の種類	2	平叙文、疑問文、命令文、感嘆文を理解する。	
		L2	文型と動詞①	2	自動詞と他動詞、第1文型～第3文型を理解する。	
		5	L3	文型と動詞②	2	第4文型、第5文型、There+be構文を理解する。
			L4	様々な疑問文	2	否定疑問文や付加疑問文、間接疑問文を理解する。
			L5	時制①	2	現在時制、過去時制、進未来時制を理解する。
			L6	時制②	2	現在進行形と過去進行形、動作動詞と状態動詞を理解する。
	1 回 考 査					
	6	L7	完了形①	2	現在完了形の用法を理解する。	
		L8	完了形②	2	現在過去完了進行形、過去完了形、未来完了形を理解する。	
	7	L9	助動詞①	2	can, could, may, might, must, have to の用法を理解する。	
		L10	助動詞②	2	should, ought to, had better, will, would などの用法を理解する。	
		L11	受動態①	2	受動態の基本的な形、助動詞を含む受動態などを理解する。	
		L12	受動態②	3	第4文型、第5文型の受動態、群動詞の受動態を理解する。	
		L13	不定詞①	2	不定詞の形容詞的用法、副詞的用法を理解する。	
		L14	不定詞②	2	不定詞の形容詞的用法、副詞的用法を理解する。	
	2 回 考 査					
	8	L15	不定詞③	3	原形不定詞、不定詞の意味上の主語、その他の重要表現を理解する。	
		L16	動名詞①	2	動名詞の基本的用法について理解する。	
	9	L17	動名詞②	2	動名詞や不定詞を目的語にとる動詞について理解する。	
		L18	分詞①	2	分詞の限定用法、叙述用法を理解する。	
	10	L19	分詞②	3	分詞構文、付帯状況の with の用法を理解する。	
		L20	関係詞①	2	関係詞の主格、所有格、目的格を理解する。	
		L21	関係詞②	2	前置詞の目的語になる関係詞、what の用法などについて理解する。	
		L22	関係詞③	3	関係副詞、複合関係詞について理解する。	
	3 回 考 査					
	11	L23	比較①	3	原級を使った比較表現、比較級を使った比較表現を理解する。	
		L24	比較②	3	比較級を使った慣用表現、最上級を使った慣用表現などを理解する。	
		L25	仮定法①	2	仮定法過去、仮定法過去完了などを理解する。	
		L26	仮定法②	3	wish, as if を使った仮定法、仮定法を使った慣用表現などを理解する。	
		L27	話法	2	直接話法、間接話法について理解する。	
	12	A1	否定	1	準否定、部分否定と二重否定、否定に関する重要表現を理解する。	
	4 回 考 査					
	1	A2	名詞と冠詞	1	注意すべき名詞の用法、不定詞・定冠詞の用法を理解する。	
		A3	代名詞①	1	所有代名詞、再帰代名詞、it の用法、指示代名詞の用法を理解する。	
		A4	代名詞②	1	不定代名詞について理解する。	
		A5	形容詞と副詞	1	注意すべき形容詞の用法、数・量を表す形容詞の用法、副詞の文中での基本的な位置について理解する。	
A6		前置詞	1	前置詞を理解する。		
A7		接続詞①	1	等位接続詞、従位接続詞を理解する。		
A8		接続詞②	1	名詞節、副詞節を導く従位接続詞を理解する。		
A9		接続詞③	1	副詞節を導く従位接続詞を理解する。		
2		A10	様々な構文	1	強調、倒置、無生物主語、名詞構文、同格構文を理解する。	
		O1	文の種類、基本文型、疑問詞	1	注意すべき疑問文について理解する。	
	O2	時制	1	時制の注意すべきその他の用法をについて理解する。		
	O3	助動詞	1	may/must/can't/should have+過去分詞について理解する。		
	O4	受動態	1	People (They) say that～の受動態について理解する。		
	O5	不定詞	1	進行形・受動態・完了形の不定詞などについて理解する。		
	O6	動名詞	1	受動態・完了形の動名詞について理解する。		
	O7	分詞	1	様々な形の分詞構文や with+O+分詞の付帯状況について理解する。		
	O8	関係詞	1	複合関係詞、譲歩を表す複合関係詞を理解する。		
	O9	比較	1	比較の注意すべき表現を理解する。		
O10	仮定法	1	If+S'+過去完了, S would +動詞の原形について理解する。			
年 度 末 考 査						
総時間数				78		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	英語表現Ⅰ (Ⅰ)	2	普通科 理数科	1
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一斉授業・習熟度別授業	英 語 科		

教科書（発行所）	Departure English Expression I（大修館）
教科書以外の教材（発行所）	Breakthrough Upgraded English Grammar in 27 lessons（美誠社） Breakthrough Upgraded English Grammar in 27 lessons Workbook（美誠社） ブレイクスルー総合英語（美誠社）

目 標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。								
学習のねらい	中学英語から高校英語へのスムーズな移行を考慮しながら、高校での英語学習の基盤となる基礎的な文法項目を、その構造と仕組みを理解し、自己表現できる能力の育成を視野に入れながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。								
定期考査	<table border="1"> <tr> <td>出題方針</td><td>教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。</td></tr> <tr> <td rowspan="5">範囲 (予定)</td><td>第1回 Lesson 1～6</td></tr> <tr> <td>第2回 Lesson 7～14</td></tr> <tr> <td>第3回 Lesson 15～22</td></tr> <tr> <td>第4回 Lesson 23～27</td></tr> <tr> <td>年度末 Additional 1 ～ Optional 7</td></tr> </table>	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。	範囲 (予定)	第1回 Lesson 1～6	第2回 Lesson 7～14	第3回 Lesson 15～22	第4回 Lesson 23～27	年度末 Additional 1 ～ Optional 7
出題方針	教科書の内容を中心に、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。								
範囲 (予定)	第1回 Lesson 1～6								
	第2回 Lesson 7～14								
	第3回 Lesson 15～22								
	第4回 Lesson 23～27								
	年度末 Additional 1 ～ Optional 7								
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。								
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	予習を必ず実行して、授業に出席してください。わからない箇所を自分で参考書を読みながら確認した上で、授業に臨むことです。学校で学習した内容はその日のうちに復習プリントを用いて復習してください。 参考書を自分で読み進めながら英文法を体系的に理解使用とすることが大切です。そして、学習した内容を実際の言語の使用場面で運用してみてください。習ったことを実際に使用することで、それぞれの文法項目が自分のものとして習得されるはずですよ。								

年間授業計画表						
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント	
通 期	4	L1	文の種類	2	平叙文、疑問文、命令文、感嘆文を理解する。	
		L2	文型と動詞①	2	自動詞と他動詞、第1文型～第3文型を理解する。	
		5	L3	文型と動詞②	2	第4文型、第5文型、There+be構文を理解する。
			L4	様々な疑問文	2	否定疑問文や付加疑問文、間接疑問文を理解する。
			L5	時制①	2	現在時制、過去時制、進未来時制を理解する。
			L6	時制②	2	現在進行形と過去進行形、動作動詞と状態動詞を理解する。
	1 回 考 査					
	6	L7	完了形①	2	現在完了形の用法を理解する。	
		L8	完了形②	2	現在過去完了進行形、過去完了形、未来完了形を理解する。	
		L9	助動詞①	2	can, could, may, might, must, have to の用法を理解する。	
		L10	助動詞②	2	should, ought to, had better, will, would などの用法を理解する。	
		7	L11	受動態①	2	受動態の基本的な形、助動詞を含む受動態などを理解する。
			L12	受動態②	3	第4文型、第5文型の受動態、群動詞の受動態を理解する。
			L13	不定詞①	2	不定詞の形容詞的用法、副詞的用法を理解する。
			L14	不定詞②	2	不定詞の形容詞的用法、副詞的用法を理解する。
	2 回 考 査					
	8	L15	不定詞③	3	原形不定詞、不定詞の意味上の主語、その他の重要表現を理解する。	
		L16	動名詞①	2	動名詞の基本的用法について理解する。	
	9	L17	動名詞②	2	動名詞や不定詞を目的語にとる動詞について理解する。	
		L18	分詞①	2	分詞の限定用法、叙述用法を理解する。	
		L19	分詞②	3	分詞構文、付帯状況の with の用法を理解する。	
	10	L20	関係詞①	2	関係詞の主格、所有格、目的格を理解する。	
		L21	関係詞②	2	前置詞の目的語になる関係詞、what の用法などについて理解する。	
		L22	関係詞③	3	関係副詞、複合関係詞について理解する。	
	3 回 考 査					
	11	L23	比較①	3	原級を使った比較表現、比較級を使った比較表現を理解する。	
		L24	比較②	3	比較級を使った慣用表現、最上級を使った慣用表現などを理解する。	
		L25	仮定法①	2	仮定法過去、仮定法過去完了などを理解する。	
		L26	仮定法②	3	wish, as if を使った仮定法、仮定法を使った慣用表現などを理解する。	
		L27	語法	2	直接語法、間接語法について理解する。	
12	A1	否定	1	準否定、部分否定と二重否定、否定に関する重要表現を理解する。		
4 回 考 査						
1	A2	名詞と冠詞	1	注意すべき名詞の用法、不定詞・定冠詞の用法を理解する。		
	A3	代名詞①	1	所有代名詞、再帰代名詞、it の用法、指示代名詞の用法を理解する。		
	A4	代名詞②	1	不定代名詞について理解する。		
	A5	形容詞と副詞	1	注意すべき形容詞の用法、数・量を表す形容詞の用法、副詞の文中での基本的な位置について理解する。		
	A6	前置詞	1	前置詞を理解する。		
	A7	接続詞①	1	等位接続詞、従位接続詞を理解する。		
	A8	接続詞②	1	名詞節、副詞節を導く従位接続詞を理解する。		
	2	A9	接続詞③	1	副詞節を導く従位接続詞を理解する。	
		A10	様々な構文	1	強調、倒置、無生物主語、名詞構文、同格構文を理解する。	
	O1	文の種類、基本文型、疑問詞	1	注意すべき疑問文について理解する。		
O2	時制	1	時制の注意すべきその他の用法をについて理解する。			
O3	助動詞	1	may/must/can't/should have + 過去分詞について理解する。			
O4	受動態	1	People /They say that~の受動態について理解する。			
O5	不定詞	1	進行形・受動態・完了形の不定詞などについて理解する。			
O6	動名詞	1	受動態・完了形の動名詞について理解する。			
O7	分詞	1	様々な形の分詞構文や with+O+分詞の付帯状況について理解する。			
O8	関係詞	1	複合関係詞、譲歩を表す複合関係詞を理解する。			
O9	比較	1	比較の注意すべき表現を理解する。			
O10	仮定法	1	If+S'+過去完了, S would +動詞の原形について理解する。			
年 度 末 考 査						
総時間数				78		